

## 平成 23 年度 山形のみちづくり評議会（第 2 回）

## 議事要旨

## 1. 日時

平成 23 年 10 月 12 日（水）14:00～16:00

## 2. 出席委員

柴田会長、貝山委員、福田委員、早坂委員、宮原委員、池田委員、小山委員、  
豊島委員、手塚委員、鹿野委員

## 3. 議事

- 1) 震災等を踏まえた山形県道路中期計画の進め方について
- 2) 事故危険区間対策事業（H23 取組み状況・H24 候補箇所）について

## 4. 議事概要

○中期計画の中でも加速すべき取り組みについて事務局より説明を行った。

- ・太平洋側と日本海側の相互補完のための公共インフラの整備について
- ・防災機能の強化について

などについて意見交換がなされた。

○事故危険区間対策事業について事務局より説明を行った。

- ・対象箇所選定のあり方、事業の進め方について
- ・まちづくりとの関係について

などについて意見交換がなされた。

## 5. 山形のみちづくり評議会（第 2 回）における主な意見

【中期計画の中でも加速すべき取り組みについて】

[リダンダンシーのあり方について]

- リダンダンシーという言葉はオーソライズされていてほかの言葉に変えられないということ  
とでなければ、もう少しわかりやすい表現をとるべき
- リダンダンシーのレベルは色々あり、どこまでなら許されるのか、確保すべき機能なのか  
が、悩ましいところ

- リダンダンシーは、例えば集落のところで日常で使っていた道路がだめになったときの代替で、その整備レベルは低くてもいいという形で考えるのがポイントかと思う
- リダンダンシーは2つ分けて考えなくてはいけない。一つは、県道と一般国道が高速道路の代替の役割を果たすこと。もう一つは、いろんなルートが選べるようになること。

[情報提供のあり方について]

- 道路として、非常事態や避難、誘導といったことに対し、情報の発信だけでなしに情報の受発信という機能について道路という存在から今後どのように考えていくのか
- 震災を考えたときに、リダンダンシーがメインのようだが、情報系もペアにしないと生きてこないことから重視してほしい
- 現在の道路で、降雪量や水量、地すべりや土砂崩れなど、形がある程度わかっているところの情報提供の仕方について、今までは起こってから何か対応したけれど、起こる可能性がわかっているところは情報提供の仕組みを準備しておくのも大事という感じがする。

[横軸路線整備の進め方について]

- 今回の震災で東北道から横に行く道路の開通が短時間でできたのは整備が進んでいたことが前提にあるが、山形県でそれに相当するのは47号、112号、113号であり、同時並行的な努力をしないと、震災に対して強い道路として役に立たないのではないか。
- 酒田の位置づけが非常に重要で、酒田から太平洋への横軸をきちんとすることが震災、災害に強い山形県をつくっていくことになるだろう。
- 47号は東北全体にとっても、一番高いところを通らないで通れる、大きなトンネルを通らないで通れる、一番安定している道路であり、この整備が、山形だけが頑張るのではなく東北として整備すべきルートとするのにはどうしたらよいか。

[防災機能の強化について]

- 東日本大震災で効果があったものについては、日本海側でもそれを考慮して線形や構造を考えることは大事
- 日本海側に災害が起こる可能性が高いと言われており、広域的な支援を受けられるような形をとることがまず我々の身を守る出発点で、今回の震災を受け、災害時に山形県が生き延びられるためにはどうしてもこれが必要だというポイントが必要
- 最近の気候を考えると、最近の雨の降り方は1時間に100ミリくらい平気で降るので、従来よりももう少しレベルの高い道路網の整備にしておかないと物流が確保できない。

[優先度の考え方について]

- 従来、交通量が多いと見込まれるところから整備してきたが、一番危ないところ、非常に重要性があるところから進めていくというふうなものもポイント

[日沿道整備の進め方について]

- 今回は災害が起きた直後だから防災について皆さん認めることが多いが、今後いろいろな要素が変わってくることを踏まえてどういう日沿道にしていくのかが課題と思う

[市町村との連携について]

- 県レベル、町レベル、市町村レベルでそれぞれの道路の重要性というのが違っている。そういうものをどうやって統一していくのかもこれから1つの課題。
- 道路について、東北でどうするのかという共通の意識も必要になっていくと思う。

【事故危険区間対策事業について】

[事業の進め方について]

- 事故件数で絞って見ているようだが、死傷事故とか重大事象であるとか、今非常に多くなっている老人の事故という観点での選定はされているか。
- 死亡事故とか重大事故というときに、高齢者とか子供が遭っている部分のデータをとって、子供向け・高齢者向けの対策というのもモデルで1つは考えてもいい
- 同じ試行錯誤するときには目的を明確にしてやってもらおうとよい。

[まちづくりとの関係について]

- もう運転をやめたほうがよいのではというお年寄りが、ほかに交通機関がないからやむなく乗っているというところから基本的に考え直した地域づくり、まちづくりをしていかなないと、事故が起きた、こういう対策をするという、イタチごっこになってしまう。
- 道路の位置づけと周辺の土地利用について一緒に検討するということがポイントという感じがする。

[整備水準のあり方について]

- 片側1車線でも中央分離帯をつくるという形で安全安心を考慮するという時代に入ったのではないかと思う。

以上